

会 議 議 事 録

1 会議名	令和5年度 第2回社会教育委員会、公民館運営審議会
2 開催日時	令和5年11月29日（水）午後1時30分～午後3時30分
3 開催場所	長岡市中央公民館 講座室
4 出席者	<p><社会教育委員兼公民館運営審議会委員></p> <p>大竹委員、前田委員、小方委員、藤田委員、西片委員、八子委員、富永委員、平野委員、荒尾委員、大森委員、小林委員、小川委員、青柳(良)委員、大淵委員、山崎委員、青柳(与)委員</p> <p><事務局職員></p> <p>中村中央公民館長、今井館長補佐、池田係長、池澤主査</p>
5 欠席者	松井委員、山田委員、後藤委員、中野委員
6 会議内容	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>(1)『地域資源を活用した「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の在り方』に係る視察訪問の報告について</p> <p>(2) グループワーク</p> <p style="text-align: center;">【検討テーマ】</p> <p>①地域資源を活用するために大切なことは何か</p> <p>②地域資源を活用するために行政・コミセン等はどうのような関わりや支援が必要か</p> <p>(3) 関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会の参加報告について</p>
7 議題の審議結果	<p>(1) 研修委員長から2年間の自主研修のまとめ方について説明があり、理解が図られた。</p> <p>(2) 9月28日（木）に視察訪問した栃尾地域・山本地域について、3班に分かれて意見交換を行い、その結果をまとめて発表することで、各地域の特色のある取り組みやその成果などについての理解が一層深まった。</p> <p>(3) 第54回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会への参加報告を行い、各委員に他市町村の社会教育の取り組みなどについて情報共有を行った。</p>
8 議題の審議内容	
委員	<p>●議題（2）について</p> <p>【①地域資源活用のために大切なこと】</p> <p>SNS（特にLINE）などのツールを活用してイベント等の広報・周知を図ることで、新たな参加者の獲得や遠方の人との情報交換などが期待できるのではないか。</p>

委員	魅力ある施設を広く市民に利用してもらうためには、遠方からでも来やすいように交通の利便性に配慮する必要がある（特に高齢者）。
委員	地域資源活用のために洗い出しや整理をする上で、地域住民全体が自分事として取り組む（応援する）という意識付けや、継続的に事業を運営するための組織づくり及び核となるリーダーの発掘・育成が必要である。
委員	他地域や地元企業など他団体との連携・情報交換や、大勢の人の意見やアイデアを取り入れるようにすると良いのではないか。
委員	【②地域資源活用のために必要とされる行政等の支援】 単年度ではなく複数年度に渡る安定的な財政的支援（補助金など）があると良いのではないか。
委員	地域の活動が持続可能な取り組みとなるための、相談窓口・サポート体制があると良いのではないか。
委員	行政には財政的支援や必要な研修会開催などの支援を、コミセンには他地域での実践例の紹介など具体的な支援をお願いするのが良いのではないか。
委員	●議題（3）について 今大会の研究主題は『今、改めて考える「ふれあい」を通した繋がりづくり・地域づくり』で、キーワードは「ウェルビーイング（個人が幸せで、周囲も良い状態である概念）」。
委員	全体会では、記念講演で作新学院高校野球部監督が「地元と生きる」を信条に選手を指導していると話していた。シンポジウムでは4名のパネリストから、人・地域・行政を繋げるのが社会教育委員の役割などの話があった。
委員	第2分科会では「子ども・若者が地域課題解決に取り組む機会の充実」をテーマに、地域に新たな組織を立ち上げ、地域ぐるみで子ども達を育てている2団体からの活動発表があった。一方の組織は社会教育委員会の建議を基に設立したとのことだった。
委員	第4分科会では「地域資源を生かす社会教育の取り組み」をテーマに2団体から発表があった。商業施設内に作られた図書館が地域資源として生かされていたり、子どもは地域の宝＝地域資源＝人づくりといった話があった。
9 会議資料	別添のとおり